

科目名	データ分析基礎						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	山下 文夫
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステムエンジニア専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年、情報システム科ネットワークエンジニア専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	統計学分野の用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。						
	iCDタスクコード		AI03.4.2				
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					統計学の分野の各用語を説明できる	
	○	○				統計学の分野の各問題を解くことができる	
テキスト・教材 参考図書	涌井 良幸, 涌井 貞美 『文系のための統計学の教室』 SBクリエイティブ、2020 演習環境：Excel						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	統計学の基本① 質的データと量的データ					
	2	統計学の基本② いろいろなグラフ					
	3	統計学の基本③ 代表値					
	4	統計学の基本④ 分布の広がり					
	5	推測統計学① 確率変数					
	6	推測統計学② 確率分布、正規分布					
	7	推測統計学③ 母集団分布と標本分布					
	8	統計的推定① 点推定と区間推定					
	9	統計的推定② 実用的な推定					
	10	統計的検定① 仮説と過誤					
	11	統計的検定② 実用的な検定					
	12	相関分析					
	13	多変量解析					
	14	回帰分析					
	15	ベイズ統計					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを2回実施する。(3)授業中に出题した課題の提出を求める。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	確認テスト	◎	◎				20%
	課題・レポート	◎	◎		○		20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	ネットワークⅡB											
科目名(英)												
単位数	10単位		時間数		150時間		担当者		高倉 美哉			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年											
授業概要	スイッチングの基礎、スイッチネットワークの冗長構成、スイッチリンクの高速化、スイッチの基本セキュリティに必要な技術を学習し、小規模ネットワークの構築と運用ができるようになる。											
	iCDタスクコード		DV04.9.1									
授業形式	講義：○		演習：△		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				スイッチネットワークの仕組みを説明できる。						
	○	○	○			小規模ネットワークの構築ができる。						
	○	○				小規模ネットワークの運用ができる。						
テキスト・教材 参考図書	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(翔泳社)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1-5	ルータの復習(基本設定、ルーティング、ACL)					ルータの基本設定、OSPFの設定を練習すること					
	6-10	第7章：Catalystスイッチの構造と基本設定										
	11-15	第7章：VLANの概要										
	16-20	第7章：VLANの設定と確認										
	21-25	第7章：VLANのトラブルシューティング										
	26-30	第7章の復習/演習					スイッチの基本設定、VLANの設定を練習すること					
	31-35	第8章：STPの概要										
	36-40	第8章：STPに関連する機能										
	41-45	第8章：STPに関連する設定と確認										
	46-50	第8章の復習/演習					STPの仕組み、ポート遷移の流れを学習すること					
	51-55	第9章：EtherChannelの概要										
	56-60	第9章：EtherChannelの設定										
	61-65	第10章：IPv6の概要										
	66-70	第10章：IPv6アドレスの設定と確認										
	71-75	総復習					EtherChannelの設定を練習すること					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で確認テストを10回実施する。(3)実習内容を課題レポートとして提出させる。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	○		◎								40%
	確認テスト			◎								20%
	課題			◎		○						20%
	受講状況							◎				20%
履修上の注意												

科目名	サーバー構築・運用演習 I B									
科目名(英)										
単位数	6単位		時間数		90時間		担当者		打越 直美・高倉 美哉	
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験		IT企業のエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年									
授業概要	AWS Linuxを使用して、サーバー構築・運用に必要な設定を講義と演習を通して学習する。また、AWSを使用することでクラウドの考え方やAWSサービスの概要を知る。									
	iCDタスクコード		DV04.4.1、DV04.7.1							
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				LinuxでWebサーバーの構築、動作確認ができる				
	○	○				AWS上でWordPressサーバーの構築、動作確認ができる				
	○	○				AWS上でRedmineサーバーの構築、動作確認ができる				
	○	○	○			AWSが提供する各サービスの管理ができる				
テキスト・教材 参考図書	AWSではじめるLinux入門ガイド(マイナビ出版)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	AWS環境確認、AWSインスタンス管理確認					自宅環境からAWSインスタンスにアクセスできることを確認			
	2-4	Linux基本コマンド操作					前期のコマンドを復習しておくこと			
	5-7	ネットワーク管理(設定ファイル、コマンド)								
	8-15	Webサーバー構築(Apacheインストール、構築、動作確認)					Webサーバーの仕組み、コマンドを復習しておくこと			
	16-18	コンテナ環境構築(Docker)								
	19-21	データベース環境設定								
	22-27	WordPressサーバー構築					WordPressサーバーの仕組み、設定の流れを復習しておくこと			
	28-34	Redmineサーバー構築					Redmineサーバーの仕組み、設定の流れを復習しておくこと			
	35-37	ECインスタンス管理								
	38-40	メール管理					メールサーバーの仕組み、設定の流れを復習しておくこと			
	41-42	Linuxサーバー監視、ログ管理								
	43-44	Linuxのセキュリティ機能								
	45	総合演習								
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で確認テストを3回実施する (3)実習内容を課題レポートとして提出させる (4)受講状況进行评估する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	○	◎				30%			
	確認テスト		◎				20%			
	課題		◎	○			30%			
	受講状況				◎		20%			
履修上の注意	再試験は実施しない									

科目名	システム開発演習 I										
科目名(英)											
単位数	3単位		時間数		90時間		担当者		久保山 大地		
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年										
授業概要	企業連携授業を通し、セキュリティ監視などで用いられるデータ分析基盤の基本用語、基本操作を身につける。また運用監視業務を実践的な環境で体験することで、運用監視に関する基本用語を押さえ、ビジネスマナーを意識して顧客に適切に報告するスキルを身につける。 iCDタスクコード DV04.9.1、DV04.9.2、DV04.11.1										
授業形式	講義：		演習：		実習： ○		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標					
	○	○				データ分析基盤に関する基本用語、概要を説明できる。					
		○				Splunkを用いてデータ分析の基本操作を実施できる。					
	○	○				ネットワーク運用監視に関する基本用語を説明できる。					
		○				ネットワーク運用監視に関する報告書を作成し、ビジネスマナーを意識して報告できる。					
テキスト・教材 参考図書	オリジナル教材										
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示		
	1	データ分析演習オリエンテーション									
	2,3	Splunkの基本用語、概要									
	4-10	Splunkの基本操作									
	11-30	Splunkによるデータ分析演習									
	31-33	データ分析演習まとめ							発表に向けた準備をすること。		
	34	運用演習オリエンテーション									
	35,36	演習の進め方、演習①オンサイト対応と工事統制									
	37,38	演習②監視の登録と非監視対応									
	39,40	演習③冗長ルータ切り分け対応									
	41,42	演習④セキュリティ装置(UTM)問合せ対応									
	43-45	運用演習まとめ							発表に向けた準備をすること。		
	評価方法	(1)複数課題を実施し評価する。(2)受講状況を評価する。 ※やむを得ない事情を除き、企業演習不参加の場合は大幅に減点する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他 評価割合	
データ分析演習課題		◎		◎		○		60%			
運用演習課題		◎		◎		○		20%			
受講状況						◎		20%			
履修上の注意	再試験は実施しない。企業連携授業は必ず参加すること(公欠などやむをえない事情は除く)。										

科目名	キャリアデザイン						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	高倉 美哉	
実施年度	2022年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻3年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年 情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年						
授業概要	就職活動の準備としてIT業界の研究、自己分析、履歴書作成、面接練習を行う。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形式	講義：	○	演習：	△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				IT業界の職種について説明ができる。	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。	
	○	○	○	○		面接試験を受ける準備ができる。	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動の流れ、就職活動のルールを知る					
	2	業界研究① IT業界の基礎				IT業界について調査する	
	3	業界研究② 様々な業種に絡むIT業界				IT分野の業種について調査する	
	4	業界研究③ IT業界で活躍する人材とは				社会人基礎力について調査する	
	5	自己分析① 過去の自分と向き合う				就職活動ガイドブックの自己分析シートを記入する	
	6	自己分析② 今の自分と向き合う					
	7	自己分析③ 未来の自分と向き合う				5年後、10年後の自分の姿を予想する	
	8	履歴書作成① 自己PR				自己PRを完成させる	
	9	履歴書作成② 業界志望理由				業界志望理由を完成させる	
	10	履歴書作成③ 趣味・特技・特記事項				履歴書を完成させる	
	11	面接練習① 入退室の所作					
	12	面接練習② 自己PR・志望理由の受け答え					
	13	面接練習③ 自己PR・志望理由の掘り下げ					
	14	面接練習④ 学生時代に力を入れたこと					
	15	企業説明会・入社試験時のマナー					
評価方法	(1)履歴書を作成する。(2)面接状況(動作、受け答え)を評価する。(3)業界セミナー、就活セミナーのレポートを提出する。 (4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	面接状況	○	◎	◎	◎		30%
	レポート提出		○		◎		20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡ							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	逢坂 美千代	
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年							
授業概要	プレゼンテーション技法の基礎を正しく理解し、「話す力」、「伝える力」を高める実践的な演習を行う。							
	iCDタスクコード		該当なし					
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
		○		○		プレゼンテーション技法の基礎を説明できる		
		○		○		相手に伝わることを意識したプレゼンテーションができる		
テキスト・教材 参考図書	前田 鎌利『プレゼン資料のデザイン図鑑』ダイヤモンド社、2019							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	プレゼンテーションとは何か						
	2	プレゼンテーションツール作成の基礎知識						
	3	企画立案・情報収集法						
	4	プレゼンテーションツール別プレゼンテーションの留意点						
	5	①プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集					作成準備を事前に行っておくこと。	
	6	①プレゼン演習 発表会 <今の気持ちを正直に話す>					発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	7	②プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集					作成準備を事前に行っておくこと。	
	8	②プレゼン演習 発表会 <わかりやすく話す>					発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	9	③プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集					作成準備を事前に行っておくこと。	
	10	③プレゼン演習 発表会 <自由に発想する>					発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	11	④プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集					作成準備を事前に行っておくこと。	
	12	④プレゼン演習 発表会 <売れるプレゼン>					発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	13	⑤プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集					作成準備を事前に行っておくこと。	
	14	⑤プレゼン演習 発表会 <ネットで集めたデータを分析する>					発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	15	まとめ						
評価方法	(1)レポートまたは課題を数回実施する。(2)プレゼンシートを評価する。(3)発表を評価する。 (4)受講状況の評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	課題・レポート提出		◎		○		30%	
	プレゼンシート		◎				30%	
	発表		◎		○		20%	
	受講状況				◎		20%	
履修上の注意	再試験は実施しない。							

科目名	クラウド									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		打越 直美・高倉 美哉	
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年									
授業概要	クラウドの概念、AWS の主要なサービス、料金、セキュリティ、アーキテクチャ、サポートに関する全体像を詳細に説明する。									
	iCDタスクコード		該当なし							
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				クラウドに関する基本用語、仕組みを説明できる。				
	○	○				IAM、VPC、EC2、S3、EFS、RDSの基本用語、仕組みを説明できる。				
	○	○				IAM、VPC、EC2、S3、EFS、RDSの基本的な設定ができる。				
テキスト・教材 参考図書	AWS Academy Cloud Foundations									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	コース紹介、モジュール1：クラウドのコンセプト								
	2	モジュール2：クラウドエコノミクスと請求								
	3	モジュール3：AWS グローバルインフラストラクチャの概要								
	4	モジュール4：クラウドのセキュリティ								
	5,6	モジュール5：ネットワークとコンテンツ配信								
	7,8	モジュール6：コンピューティング								
	9,10	モジュール7：ストレージ								
	11,12	モジュール8：データベース								
	13,14	モジュール9：クラウドアーキテクチャ								
	15	モジュール10：Auto Scalingとモニタリング								
	評価方法	(1)確認テストをモジュール毎に実施 (2)受講状況を評価する (3)定期試験(筆記) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
確認テスト		○	◎				25%			
受講状況					◎		25%			
定期試験(筆記)			◎				50%			
履修上の注意										

科目名	一般教養ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	畠添 正和		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 2年・情報システム専攻科 2年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース1年、情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	就職筆記試験に関して以下の対策を行う。 ①「SPIテスト」前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説＆練習問題を行う ②「CAB・GABテスト」テキストに沿って、解説＆練習問題を行う ⇒ 授業内評価テスト(2回)を実施する ③ 漢字対策：麻生塾の「ミニテスト」を利用し、漢字の練習 ⇒ 確認を行う						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形式	講義：○	演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語分野・非言語分野の問題に対して解答を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版) 最新最強のCAB・GAB超速解法(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	CAB・GAB対策(その1)					
	2	CAB・GAB対策(その2)、漢字対策(その1)					
	3	CAB・GAB対策(その3)、漢字対策(その2)					
	4	CAB・GAB対策(その4)、漢字対策(その3)				授業内評価テストの範囲を復習しておくこと	
	5	授業内評価テスト①(CAB一連テスト)、漢字対策(その4)					
	6	CAB・GAB対策(その5)、漢字対策(その5)				授業内評価テストの範囲を復習しておくこと	
	7	授業内評価テスト②(GAB一連テスト) SPI数学分野及び国語分野の対策(その1)、漢字対策(その6)					
	8	SPI数学分野及び国語分野の対策(その2)、漢字対策(その7)					
	9	SPI数学分野及び国語分野の対策(その3)、漢字対策(その8)					
	10	SPI数学分野及び国語分野の対策(その4)、漢字対策(その9)					
	11	SPI数学分野及び国語分野の対策(その5)、漢字対策(その10)					
	12	SPI数学分野の対策(その6)、漢字対策(その11)					
	13	SPI数学分野の対策(その7)及びSPI模擬テスト(textの別冊1)					
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ					
	15	SPI数学分野及びSPI国語分野の復習、定期試験対策					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で授業内評価テスト(30分間・2回)を実施する。(3)授業の中で、SPI国語分野の補完として、漢字対策を実施する。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				50%
	授業内評価テスト	◎	◎				30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	ネットワーク基礎						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	高倉 美哉
実施年度	2022年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	TCP/IPネットワークに利用されている技術やツールについて学ぶ。またシミュレーションソフトを使用して、データ転送の仕組みやアプリケーションプロトコルについて理解する。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形式	講義： ○		演習： △	実習：		実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				IPアドレス、サブネットマスクの意味、サブネット化の計算ができる	
	○	○				要求に応じて、小規模LANの設計ができる	
	○					telnet、DNS、HTTPなどのアプリケーションプロトコルについて説明できる	
	○					OSI参照モデルの各レイヤの特徴を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	OSI参照モデル、TCP/IPモデル					OSI参照モデルについて復習すること
	2	ポートとプロトコル					
	3	IPv4アドレスの特徴					
	4	サブネット化の目的					サブネット化について復習すること
	5-7	サブネット計算(FLSM)					
	8-10	サブネット計算(VLSM)					サブネット計算について復習すること
	11-12	Ciscoルータアクセス、設定コマンド					ルータ設定コマンドについて復習すること
	13-15	スタティックルーティングの基本、設定					スタティックルーティングについて復習すること
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)課題レポートの提出を数回実施する。 (4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				40%
	確認テスト		◎				20%
	課題レポート		◎		○		20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験対策秋対策B									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		20時間		担当者		姫野 マリ	
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年									
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。									
	iCDタスクコード		該当なし							
授業形式	講義： △		演習： ○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。				
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。				
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1～5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。			
	6～10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験(筆記)	○		◎				60%		
	確認テスト	○		◎				20%		
	受講状況					◎		20%		
履修上の注意	再試験は実施しない									

科目名	情報処理試験対策春対策B											
科目名(英)												
単位数	1単位		時間数		24時間		担当者		川野 啓祐・姫野 マリ			
実施年度	2022年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2,3年・情報工学科2,3,4年 情報システム科アドバンスコース1,2年・情報システム専攻科アドバンスコース1,2,3年											
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。											
	iCDタスクコード		該当なし									
授業形式	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。						
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1～6	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。					
	7～12	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	○		◎								60%
	確認テスト	○		◎								20%
	受講状況							◎				20%
履修上の注意												